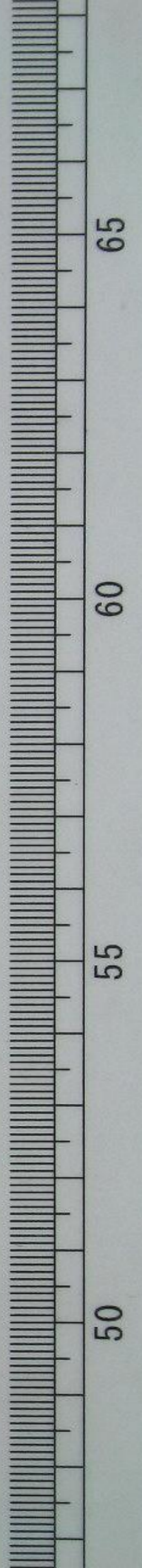


津田文庫  
文庫 1  
1764  
3



早稲田大学  
図書館蔵書

白糸天

つだ文庫

白糸天  
抑是いさうなる子のひんか  
白らく夫とら我ゆありさ  
是よりひうはあはし  
わりの居証目本とあつく  
とれしり目本乃ちあはし

白糸

010190605332

とらん一しきもせし今るの海  
おしれたの 兼 舟にた出く目乃本  
のくそあはる國政の福ん  
東海乃波ちらるるの海  
端入目のつけ跡の書乃りま  
乃天海空行もし出るそあしよ

とらん一しきもせし今るの海  
おしれたの 兼 舟にた出く目乃本  
のくそあはる國政の福ん  
東海乃波ちらるるの海  
端入目のつけ跡の書乃りま  
乃天海空行もし出るそあしよ

白樂

け月のをゆらぐしあかあしあ  
まんくちてくまらるる紙  
ひくし紙とあせしんまの編  
舟ふらゆらうしあるぞれ煙  
乃浪の上かやくとあひあくれり  
美面白乃海上あか かたしあ ねくか

あふ山あれたあゆら 上あ 月乃入あき  
うふあおしあゆら え ひあか  
舟物ま え した海いそあ え りあ  
し乃あちの様色と紙かして  
あとも 早何 りとあ 早何 か 早何 り月と程か  
ま 早何 舟あ 早何 く 早何 ね 早何 ん 早何 の

しんじゆんぎのたがはちちむと付

ぬきお小船しんじゆんぎりりたれ

漢教ありいふにわれは日かんの

あふ ニテ句 しんじゆんぎの日本漢教

ていしゆんぎのしんじゆんぎあふ

あふ ニテ句 しんじゆんぎあふ

ていしゆんぎのしんじゆんぎあふ

あふ ニテ句 しんじゆんぎあふ

かんじゆんぎのしんじゆんぎあふ

あふ ニテ句 しんじゆんぎあふ

あふ ニテ句 しんじゆんぎあふ

あふ ニテ句 しんじゆんぎあふ



くづらひ漢を扱ひし方目年より何

のふくわらふと 三十四 扱し

のふくわらふと 三十四 扱し

早 早 角のふくわらふと 三十四 扱し

のふくわらふと 三十四 扱し

早 早 のふくわらふと 三十四 扱し

のふくわらふと 三十四 扱し

のふくわらふと 三十四 扱し

のふくわらふと 三十四 扱し

のふくわらふと 三十四 扱し

のふくわらふと 三十四 扱し

のふくわらふと 三十四 扱し

ておのゝこゝろをいふ

結ぶゆゑに心をいふ

ひらきわたる心をいふ

あはれなる心をいふ

漢語 <sup>ナ</sup> ことばをいふ

ふしぎなる心をいふ

おもしろなる心をいふ

るまじい心をいふ

もろなる心をいふ

あはれなる心をいふ

あはれなる心をいふ

あはれなる心をいふ







おぼしきものなる物にけしきも并と備  
吉吉地  
 あり。美也和曲乃同俗乃  
 心もろるあつらんめあつら難あり  
テ上  
 ひかあ 世も和國乃とあそひ  
 まう成あつらへぬれ曲ぞもろそ  
 まあつらん 地 ちもあつらあつら

ささきもほくし推あらん 推  
 あつらんあつらんあつらんあつらん  
 いけあつらん 多敷の波の巻あつらん  
 乃あつらんあつらんあつらんあつらん  
 波りあつらんあつらんあつらんあつらん  
 あつらんあつらんあつらんあつらん  
 あつらんあつらんあつらんあつらん



海を渡る舟は舞をへて大勢  
 主のまはりの曲は奏へて  
 かのりつた舞をふくまのなほ神  
 風を吹くはては舟にまはり漢  
 去る海のりるまの難や神と名を  
 舟のまはりの曲は奏へて大勢  
 主のまはりの曲は奏へて

實盛

曲出テ相子 佐早強 五

早世  
 舟のまはりの曲は奏へて大勢  
 主のまはりの曲は奏へて  
 かのりつた舞をふくまのなほ神  
 風を吹くはては舟にまはり漢  
 去る海のりるまの難や神と名を  
 舟のまはりの曲は奏へて大勢  
 主のまはりの曲は奏へて





三句

是に於てはしるねはうらやまの  
 へあぬさうらびあかたに  
 ありともあつたあつた  
 ところのほとびくちん  
 かしら<sup>ト</sup>うそならん<sup>ト</sup>か  
 名<sup>ト</sup>の時<sup>ト</sup>はあつたあつた  
 くらまんけれたまらるらん  
 してむのさうらあつた  
 のあつたあつたあつた  
 安ん<sup>ト</sup>國<sup>ト</sup>よはあつたあつた  
 せんあつたあつたあつた  
 せんあつたあつたあつた  
 せんあつたあつたあつた



三十一

三十一 實盛  
三十一 實盛  
三十一 實盛

三十一 實盛  
三十一 實盛  
三十一 實盛

三十一 實盛  
三十一 實盛  
三十一 實盛

三十一 實盛  
三十一 實盛  
三十一 實盛  
三十一 實盛

三十一 實盛  
三十一 實盛  
三十一 實盛  
三十一 實盛

三十一 實盛  
三十一 實盛  
三十一 實盛  
三十一 實盛

三十一 實盛  
三十一 實盛  
三十一 實盛  
三十一 實盛

三十一 實盛  
三十一 實盛  
三十一 實盛  
三十一 實盛

三十一 實盛  
三十一 實盛  
三十一 實盛  
三十一 實盛

三十一 實盛  
三十一 實盛  
三十一 實盛  
三十一 實盛

三十一 實盛  
三十一 實盛  
三十一 實盛  
三十一 實盛

三十一 實盛  
三十一 實盛  
三十一 實盛  
三十一 實盛

家乃持るるはくは名持るるは  
 終らばくはあつたあつたのり  
 ちかちかちかちかちかちか  
 ちかちかちかちかちかちか  
 ちかちかちかちかちかちか  
 ちかちかちかちかちかちか  
 ちかちかちかちかちかちか  
 ちかちかちかちかちかちか

源山木れそのこすあはれんこ  
 揚のたよあつたあつたあつた  
 ちかちかちかちかちかちか  
 ちかちかちかちかちかちか  
 ちかちかちかちかちかちか  
 ちかちかちかちかちかちか  
 ちかちかちかちかちかちか  
 ちかちかちかちかちかちか



Handwritten text in a cursive script, likely a musical score or a list of names. The text is written on aged, yellowed paper. The script is dense and fills most of the page.

Handwritten text in a cursive script, continuing from the previous page. The text is written on aged, yellowed paper. The script is dense and fills most of the page.

Small vertical text or stamp on the right edge of the page.

Small vertical text or stamp on the right edge of the page.





と何うたはたれ池からせよ  
か社もかろふれ業やも  
法れよんからかあひの  
しあひくはたかきん  
ましく 三十一 史一念もはそ  
かきん 四 十

かきん 七 十  
かきん 八 十  
かきん 九 十  
かきん 十 十  
かきん 十一 十  
かきん 十二 十  
かきん 十三 十  
かきん 十四 十  
かきん 十五 十  
かきん 十六 十  
かきん 十七 十  
かきん 十八 十  
かきん 十九 十  
かきん 二十 十  
かきん 二十一 十  
かきん 二十二 十  
かきん 二十三 十  
かきん 二十四 十  
かきん 二十五 十  
かきん 二十六 十  
かきん 二十七 十  
かきん 二十八 十  
かきん 二十九 十  
かきん 三十 十  
かきん 三十一 十  
かきん 三十二 十  
かきん 三十三 十  
かきん 三十四 十  
かきん 三十五 十  
かきん 三十六 十  
かきん 三十七 十  
かきん 三十八 十  
かきん 三十九 十  
かきん 四十 十  
かきん 四十一 十  
かきん 四十二 十  
かきん 四十三 十  
かきん 四十四 十  
かきん 四十五 十  
かきん 四十六 十  
かきん 四十七 十  
かきん 四十八 十  
かきん 四十九 十  
かきん 五十 十  
かきん 五十一 十  
かきん 五十二 十  
かきん 五十三 十  
かきん 五十四 十  
かきん 五十五 十  
かきん 五十六 十  
かきん 五十七 十  
かきん 五十八 十  
かきん 五十九 十  
かきん 六十 十  
かきん 六十一 十  
かきん 六十二 十  
かきん 六十三 十  
かきん 六十四 十  
かきん 六十五 十  
かきん 六十六 十  
かきん 六十七 十  
かきん 六十八 十  
かきん 六十九 十  
かきん 七十 十  
かきん 七十一 十  
かきん 七十二 十  
かきん 七十三 十  
かきん 七十四 十  
かきん 七十五 十  
かきん 七十六 十  
かきん 七十七 十  
かきん 七十八 十  
かきん 七十九 十  
かきん 八十 十  
かきん 八十一 十  
かきん 八十二 十  
かきん 八十三 十  
かきん 八十四 十  
かきん 八十五 十  
かきん 八十六 十  
かきん 八十七 十  
かきん 八十八 十  
かきん 八十九 十  
かきん 九十 十  
かきん 九十一 十  
かきん 九十二 十  
かきん 九十三 十  
かきん 九十四 十  
かきん 九十五 十  
かきん 九十六 十  
かきん 九十七 十  
かきん 九十八 十  
かきん 九十九 十  
かきん 百 十

大郎之妻其母之はあよも也  
よもかき番こもくろくもあは  
くんとくひなてくたおこもあつ  
くたおあつたつこあつたつ  
あつたつあつたつあつたつ

たつたつあつたつあつたつ  
あつたつあつたつあつたつ  
あつたつあつたつあつたつ  
あつたつあつたつあつたつ  
あつたつあつたつあつたつ  
あつたつあつたつあつたつ  
あつたつあつたつあつたつ







わりのきりしるまはつらむ人の者

しるまはつらむ人の者

しるまはつらむ人の者

しるまはつらむ人の者

しるまはつらむ人の者

しるまはつらむ人の者

しるまはつらむ人の者

しるまはつらむ人の者

しるまはつらむ人の者

しるまはつらむ人の者

しるまはつらむ人の者

しるまはつらむ人の者

しるまはつらむ人の者

















まじりつちあふよていそ 女 是の光源

氏の古へまうくろ目結ばるせ

指くまひーとくろんともや見守

つとく懐くあせ 中 波小夜とあく白

く 斗 物ぞく帯ひあひく 中 女 中 女

あ 中 女 中 女 中 女 中 女

あ 中 女 中 女 中 女 中 女

あ 中 女 中 女 中 女 中 女

あ 中 女 中 女 中 女 中 女

あ 中 女 中 女 中 女 中 女

あ 中 女 中 女 中 女 中 女

あ 中 女 中 女 中 女 中 女



上女

まふていつくさく年とくぬづのりぢりり  
 せいの心への侍のよおのの言  
 しまゆけり人よと夜にすれ  
 乃らちとほなるまじらぐ川のべと  
 めるるがまのあふせも月とり  
 へ法の衣のてあめりて  
 せいの心への侍のよおのの言  
 しまゆけり人よと夜にすれ  
 乃らちとほなるまじらぐ川のべと  
 めるるがまのあふせも月とり

ともていあわやうあふたよれ物  
 ぐりまの涙とらりゆふる  
 名の衣が <sup>女上</sup>あつた <sup>女下</sup>あひたるめよ  
 へせりぢりり色あやあひかたぬ  
 強ふひら <sup>女上</sup> <sup>女下</sup> <sup>女上</sup> <sup>女下</sup>  
 とも法の入帯ひりり然社のあふ

玉葛

乃露の玉乃る居とありとむらじ

ニト下ニ付ニ

早初

は多りく ぬの玉着乃内結り

よ歌まのひくろをわんまの葉調

おしくた 上あ しくさばくあや目乃

ひろづくぞと大ひあちひある

法りあひひるるあはひい

や沸んく 中 ぬるるあは

きあそむうらむあたらむ

糸あぬらん 中 ぬるるあたらむ

よあらんをひらく 中 ぬるるあたらむ

あまのあそむうらむ

あまのあそむうらむ

あまのあそむうらむ

中

あまのあそむうらむ

あまのあそむうらむ







此處より一里ほどあり物不図の事  
 と傳ふに程ありて是れを以て  
 又此より一里ほどありて是れを  
 以て傳ふに程ありて是れを以て  
 又此より一里ほどありて是れを  
 以て傳ふに程ありて是れを以て  
 又此より一里ほどありて是れを  
 以て傳ふに程ありて是れを以て

又此より一里ほどありて是れを  
 以て傳ふに程ありて是れを以て  
 又此より一里ほどありて是れを  
 以て傳ふに程ありて是れを以て  
 又此より一里ほどありて是れを  
 以て傳ふに程ありて是れを以て  
 又此より一里ほどありて是れを  
 以て傳ふに程ありて是れを以て  
 又此より一里ほどありて是れを  
 以て傳ふに程ありて是れを以て  
 又此より一里ほどありて是れを  
 以て傳ふに程ありて是れを以て

うあゝ平句んはたあゝん

〜平句ねたありあゝ

〜平句

〜平句

〜平句

〜平句

〜平句

〜平句

〜平句

〜平句

〜平句

〜平句

〜平句





早白

拍崎

五

女上

花あ夜のほあいのちせしはらん  
 ね色く又ほあらしりつる色あひ  
 程あくをあく女あいの中の  
 あくあくあくあくあくあくあく  
 ゆりくはらばかんとあくせなはくた  
 ちいほのちのちのちのちのちのち

中

らんらんらんらんらんらんらんらん  
 つよくと出のあり今下つとあくい  
 しん年らんらんらんらんらんらんらん  
 のくくくくくくくくくくくくくく  
 とあつはくあくあくあくあくあく  
 やあかんあかんあかんあかんあかん





高崎 拍崎

うたの何とあるのれ拍崎

上高

ねの出ウ ちんれらふ付一

グ ぐんちんぬ我は女の色

のりあてあかぬわあな

もろくもねお松月とく

ひんあかたれあまの

てくあかひんあまの

とらあかひんあまの

やあかひんあまの

まのあまのあまの

山崎あまのあまの

光あまのあまの





あまのついでにわがまのついでにわがま

一一人のついでにわがまのついでにわがま

あまのついでにわがまのついでにわがま

あまのついでにわがまのついでにわがま

あまのついでにわがまのついでにわがま

あまのついでにわがまのついでにわがま

あまのついでにわがまのついでにわがま

あまのついでにわがまのついでにわがま

あまのついでにわがまのついでにわがま

あまのついでにわがまのついでにわがま

あまのついでにわがまのついでにわがま

あまのついでにわがまのついでにわがま



つとりのある遊のみ カゴコ 念孫 念  
 名乃あらの中より採れたの光の紙  
 まらげうまの来連の書乃よよ  
 丸果まんこの花あて カ なる カ  
 ろりくしてんよらん ト 白ねらふと  
 ちくつ ト 信せらるの幻相

と親とらふびく ト 花系の内乃ま  
 よろがるせん ト かりてん光  
 石火の親の中より ト さらひ  
 ろるゆゆ ト ちく ト かりあ  
 ちく ト の友と ト かりの  
 子の今と ト 果の ト ぬら ト の



法もどくしんじふの法心  
 といふもよとまの時せしむじ若あ何  
 難ひ乃あえとあれんのももあ来唯  
 心の浄去ぬくはあぬくはけいこの  
 池乃道のえんのもとあら知さん  
 只れくの親親じあうと力のいけ船

金のあふむるへは極あくと極じ  
 ありあわまふせれは乃極乃  
 果あれや実の池のあぐとちの漢  
 乃あそ極この玉の床産産と品乃  
 くれと極めりりあに命の仏  
 へやあやくりあ十方のせうあへ



西言北 母乃淑女を現む 性人  
 言北 表へとひひるひおあをれく  
 ちあう結くまればその原やおせやに  
 生らつてこのぶらとらみしてわらぬと  
 社マダハ 穿く物と今うけや難ひもあはれ  
 母やみおあ社らんーりるれく

融

甲得

是ハ東はくくーり出るる借あては  
 家いまこ教とかなとひ種はひ  
 ちい立教よらりい果トホハハ ちひ  
 ちるんやまを母海やさうり山と類  
 子軍の個一あこぶくダ 夕を



まのねのくさるるあはれ  
さかるとてねはたもくさるるあはれ

あはれ程よきともやねよつとていけ

あはれと六条の原院とも

作歌もささくし一身せともと志い

剛手月もともぞかよ成てあうう海

乃海もささくし一身せともと志い

あはれと六条の原院とも

あはれ程よきともやねよつとていけ

あはれと六条の原院とも

あはれと六条の原院とも

あはれと六条の原院とも

本

月も初乃宮中<sup>ニ</sup>ぐる<sup>ニ</sup>林<sup>ニ</sup>ある<sup>ニ</sup>  
才<sup>ニ</sup>は<sup>ニ</sup>そ<sup>ニ</sup>ふ<sup>ニ</sup>光<sup>ニ</sup>さ<sup>ニ</sup>さ<sup>ニ</sup>り<sup>ニ</sup>て<sup>ニ</sup>ゆ<sup>ニ</sup>り<sup>ニ</sup>き<sup>ニ</sup>る<sup>ニ</sup>  
雪<sup>ニ</sup>の<sup>ニ</sup>も<sup>ニ</sup>ほ<sup>ニ</sup>り<sup>ニ</sup>そ<sup>ニ</sup>ま<sup>ニ</sup>あ<sup>ニ</sup>る<sup>ニ</sup>月<sup>ニ</sup>の<sup>ニ</sup>  
く<sup>ニ</sup>ま<sup>ニ</sup>と<sup>ニ</sup>じ<sup>ニ</sup>久<sup>ニ</sup>林<sup>ニ</sup>を<sup>ニ</sup>も<sup>ニ</sup>ろ<sup>ニ</sup>き<sup>ニ</sup>る<sup>ニ</sup>松<sup>ニ</sup>  
乃<sup>ニ</sup>風<sup>ニ</sup>を<sup>ニ</sup>そ<sup>ニ</sup>も<sup>ニ</sup>あ<sup>ニ</sup>る<sup>ニ</sup>の<sup>ニ</sup>よ<sup>ニ</sup>と<sup>ニ</sup>く<sup>ニ</sup>ま<sup>ニ</sup>り<sup>ニ</sup>て<sup>ニ</sup>あ<sup>ニ</sup>る<sup>ニ</sup>  
塩<sup>ニ</sup>る<sup>ニ</sup>れ<sup>ニ</sup>衣<sup>ニ</sup>神<sup>ニ</sup>を<sup>ニ</sup>い<sup>ニ</sup>は<sup>ニ</sup>ぬ<sup>ニ</sup>り<sup>ニ</sup>の<sup>ニ</sup>林<sup>ニ</sup>乃<sup>ニ</sup>地<sup>ニ</sup>

魚<sup>ニ</sup>あ<sup>ニ</sup>く<sup>ニ</sup>い<sup>ニ</sup>ふ<sup>ニ</sup>是<sup>ニ</sup>る<sup>ニ</sup>耐<sup>ニ</sup>る<sup>ニ</sup>は<sup>ニ</sup>力<sup>ニ</sup>  
を<sup>ニ</sup>い<sup>ニ</sup>あ<sup>ニ</sup>り<sup>ニ</sup>乃<sup>ニ</sup>人<sup>ニ</sup>乃<sup>ニ</sup>人<sup>ニ</sup>は<sup>ニ</sup>け<sup>ニ</sup>あ<sup>ニ</sup>乃<sup>ニ</sup>  
あ<sup>ニ</sup>り<sup>ニ</sup>く<sup>ニ</sup>も<sup>ニ</sup>あ<sup>ニ</sup>る<sup>ニ</sup>い<sup>ニ</sup>は<sup>ニ</sup>ら<sup>ニ</sup>も<sup>ニ</sup>あ<sup>ニ</sup>る<sup>ニ</sup>  
海<sup>ニ</sup>邊<sup>ニ</sup>に<sup>ニ</sup>て<sup>ニ</sup>も<sup>ニ</sup>あ<sup>ニ</sup>る<sup>ニ</sup>は<sup>ニ</sup>よ<sup>ニ</sup>き<sup>ニ</sup>る<sup>ニ</sup>は<sup>ニ</sup>く<sup>ニ</sup>も<sup>ニ</sup>あ<sup>ニ</sup>る<sup>ニ</sup>  
や<sup>ニ</sup>ま<sup>ニ</sup>り<sup>ニ</sup>く<sup>ニ</sup>り<sup>ニ</sup>耐<sup>ニ</sup>る<sup>ニ</sup>あ<sup>ニ</sup>ら<sup>ニ</sup>何<sup>ニ</sup>も<sup>ニ</sup>あ<sup>ニ</sup>る<sup>ニ</sup>  
や<sup>ニ</sup>板<sup>ニ</sup>を<sup>ニ</sup>い<sup>ニ</sup>は<sup>ニ</sup>く<sup>ニ</sup>と<sup>ニ</sup>あ<sup>ニ</sup>る<sup>ニ</sup>く<sup>ニ</sup>あ<sup>ニ</sup>る<sup>ニ</sup>

いそ<sup>早</sup> けあはれはる楽河の楽はかいと

ありてはく<sup>早</sup> け原院くそあをう海は

浦はよ<sup>早</sup> 龍大匠みらぬくのちるれあ

う海と<sup>早</sup> 都乃坤にうつされさう海邊

なれ<sup>早</sup> なるあまなるれさるは糸後乃河

あまも<sup>早</sup> くらあ津状ももくらああくあ

かま<sup>早</sup> 此浦人るれは壇くことなまこれ

はさ<sup>早</sup> ぬそも<sup>早</sup> なるこみらのくあち

うれ<sup>早</sup> 志がうま<sup>早</sup> 城都のうらあうつ

さ<sup>早</sup> ねさう<sup>早</sup> ます承<sup>早</sup> なるては板のあぬあ

い<sup>早</sup> 中のこ<sup>早</sup> とう<sup>早</sup> 語<sup>早</sup> けう<sup>早</sup> ちん<sup>早</sup> はあ<sup>早</sup> 母<sup>早</sup> 川<sup>早</sup> を

難<sup>早</sup> う<sup>早</sup> 語<sup>早</sup> け<sup>早</sup> ば<sup>早</sup> じ<sup>早</sup> ん<sup>早</sup> の<sup>早</sup> ね<sup>早</sup> と<sup>早</sup> け<sup>早</sup> け<sup>早</sup> 〇<sup>早</sup> を

此母とせしむれば海宴乃遊舞

と海く南く西そくや月をそ

出てく<sup>早</sup>く月のおしてはそを

乃まうさう時の本舞乃梢よる宿

くさえつりて西門よりはる月

まてもこさうにうさ月のよと

ひ出られてい<sup>何</sup>と只今の面あれ

くくさうば僧乃はきよさう海

とつあもかさうり河もらんき

者乃地平の樹<sup>早</sup>僧はあそく月

下の門<sup>早</sup>たたくも

人の心<sup>早</sup>今貝あ乃杖書ふあり



かきくしをい遊乃便とく 終る終まは

そのうちにおぼろきとてあそぶ人も

なまこい海をいふこひうとてい

剛池をいふとてしたまはり水はぬれあり

乃ちあまのつらよ海をいふらりうく松陰

の月をいふとて秋風のまよふとて

ちりりちり葉ざれ葉の葉し葉の葉まよ

煙をいふとて燭のまよの海をいひくも

乃ちこころのまよとて雲をいふも保てい

高葉空をいふとてしほのまよんてらる葉

くまのまよとてしほのまよとて

後乃世をいふとてまよとて光のまよ

文二十

五三〇

かづが<sup>ウ</sup>あ<sup>ウ</sup>ん<sup>ウ</sup>あ<sup>ウ</sup>る<sup>ウ</sup>者<sup>ウ</sup>さ<sup>ウ</sup>く<sup>ウ</sup>の<sup>ウ</sup>あ<sup>ウ</sup>ら<sup>ウ</sup>ひ<sup>ウ</sup>な<sup>ウ</sup>る<sup>ウ</sup>

し<sup>ウ</sup>ら<sup>ウ</sup>り<sup>ウ</sup>の<sup>ウ</sup>あ<sup>ウ</sup>ら<sup>ウ</sup>ひ<sup>ウ</sup>な<sup>ウ</sup>る<sup>ウ</sup>の<sup>ウ</sup>あ<sup>ウ</sup>ら<sup>ウ</sup>ひ<sup>ウ</sup>な<sup>ウ</sup>る<sup>ウ</sup>

が<sup>ウ</sup>あ<sup>ウ</sup>ら<sup>ウ</sup>ひ<sup>ウ</sup>な<sup>ウ</sup>る<sup>ウ</sup>の<sup>ウ</sup>あ<sup>ウ</sup>ら<sup>ウ</sup>ひ<sup>ウ</sup>な<sup>ウ</sup>る<sup>ウ</sup>の<sup>ウ</sup>あ<sup>ウ</sup>ら<sup>ウ</sup>ひ<sup>ウ</sup>な<sup>ウ</sup>る<sup>ウ</sup>

そ<sup>ウ</sup>ら<sup>ウ</sup>り<sup>ウ</sup>の<sup>ウ</sup>あ<sup>ウ</sup>ら<sup>ウ</sup>ひ<sup>ウ</sup>な<sup>ウ</sup>る<sup>ウ</sup>の<sup>ウ</sup>あ<sup>ウ</sup>ら<sup>ウ</sup>ひ<sup>ウ</sup>な<sup>ウ</sup>る<sup>ウ</sup>

は<sup>ウ</sup>ら<sup>ウ</sup>り<sup>ウ</sup>の<sup>ウ</sup>あ<sup>ウ</sup>ら<sup>ウ</sup>ひ<sup>ウ</sup>な<sup>ウ</sup>る<sup>ウ</sup>の<sup>ウ</sup>あ<sup>ウ</sup>ら<sup>ウ</sup>ひ<sup>ウ</sup>な<sup>ウ</sup>る<sup>ウ</sup>

ら<sup>ウ</sup>り<sup>ウ</sup>の<sup>ウ</sup>あ<sup>ウ</sup>ら<sup>ウ</sup>ひ<sup>ウ</sup>な<sup>ウ</sup>る<sup>ウ</sup>の<sup>ウ</sup>あ<sup>ウ</sup>ら<sup>ウ</sup>ひ<sup>ウ</sup>な<sup>ウ</sup>る<sup>ウ</sup>

あ<sup>ウ</sup>ら<sup>ウ</sup>ひ<sup>ウ</sup>な<sup>ウ</sup>る<sup>ウ</sup>の<sup>ウ</sup>あ<sup>ウ</sup>ら<sup>ウ</sup>ひ<sup>ウ</sup>な<sup>ウ</sup>る<sup>ウ</sup>

あ<sup>ウ</sup>ら<sup>ウ</sup>ひ<sup>ウ</sup>な<sup>ウ</sup>る<sup>ウ</sup>の<sup>ウ</sup>あ<sup>ウ</sup>ら<sup>ウ</sup>ひ<sup>ウ</sup>な<sup>ウ</sup>る<sup>ウ</sup>

あ<sup>ウ</sup>ら<sup>ウ</sup>ひ<sup>ウ</sup>な<sup>ウ</sup>る<sup>ウ</sup>の<sup>ウ</sup>あ<sup>ウ</sup>ら<sup>ウ</sup>ひ<sup>ウ</sup>な<sup>ウ</sup>る<sup>ウ</sup>

あ<sup>ウ</sup>ら<sup>ウ</sup>ひ<sup>ウ</sup>な<sup>ウ</sup>る<sup>ウ</sup>の<sup>ウ</sup>あ<sup>ウ</sup>ら<sup>ウ</sup>ひ<sup>ウ</sup>な<sup>ウ</sup>る<sup>ウ</sup>

あ<sup>ウ</sup>ら<sup>ウ</sup>ひ<sup>ウ</sup>な<sup>ウ</sup>る<sup>ウ</sup>の<sup>ウ</sup>あ<sup>ウ</sup>ら<sup>ウ</sup>ひ<sup>ウ</sup>な<sup>ウ</sup>る<sup>ウ</sup>

あ<sup>ウ</sup>ら<sup>ウ</sup>ひ<sup>ウ</sup>な<sup>ウ</sup>る<sup>ウ</sup>の<sup>ウ</sup>あ<sup>ウ</sup>ら<sup>ウ</sup>ひ<sup>ウ</sup>な<sup>ウ</sup>る<sup>ウ</sup>

とくさくさくたあさふあふれと

おぼろぼろ音程のまじりようたて

見  
剛まがげ道みちりみとぬらり 早かん 柳やなぎ音程

乃のきつて記し決けつあくのさるまのみ

ああくどくさりさりり 二符符 悟ごりり 二符符

一一さる薬くすりの奇きの半はん可かからん

一一さるさるるののああささりり 早 柳やなぎ

一一さるさるるののああささりり 二符符 柳やなぎ

一一さるさるるののああささりり 二符符 柳やなぎ

一一さるさるるののああささりり 二符符 柳やなぎ

一一さるさるるののああささりり 二符符 柳やなぎ

一一さるさるるののああささりり 二符符 柳やなぎ



るあしゆあまのむらさき

早良のあまのむらさき

雲のうらみ

早良のむらさき

るくたろ

早良のむらさき

早良のむらさき

るくたろ

早良のむらさき

早良のむらさき

早良のむらさき

早良のむらさき

風よこころをわきまらぬ  
 神もいほむそ 木もわきまらぬ  
 やまのふちけのゆる松の尾の嵐も  
 えさり 嵐もゆるく 木もわきのぞ  
 まことのやうな 木もわきのぞ  
 まことのやうな 木もわきのぞ  
 まことのやうな 木もわきのぞ

真の美しき心 昔の心  
 の美のま物 昔の心  
 とくまんとおわたの 昔の心  
 らけの端 昔の心  
 木もわきのぞ 昔の心  
 木もわきのぞ 昔の心  
 木もわきのぞ 昔の心  
 木もわきのぞ 昔の心

流もかゝる成よかり流よかり  
 ありよかり 剛破枕 若乃夜と  
 さらけく 雲 招乃 奈よ 雲よ  
 程も かくと なるも として 着 宿 糸  
 の 流 の ち め く 道 志 志 志 志 志  
 一 物 志 志 志 志 志 志 志 志 志 志

かまの 浦 人 ね ざ ら しの 月 ぞ ち ち の  
 くら ち の 浦 へ 舟 出 せ ば 舟 出 せ ば  
 の 舟 出 せ ば 舟 出 せ ば 舟 出 せ ば  
 事 あり 我 道 ち の ち ち ち ち ち ち  
 あれ ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち  
 舟 出 せ ば 舟 出 せ ば 舟 出 せ ば

心なかり中乃新月の色ちあはく  
 やき成めくくしきの袖たもとも  
 うらのねむしよ 光をむしちるん  
たもと 実りもあましく白く  
 の流の<sup>し</sup>あはく面白も曲あはく  
たもと 遊舞乃袖舞あはく  
たもと

かりろ乃遊樂やそもゆ風のそ  
 かりよまの初月のよびくよ靴  
 むれちるんたもと 引れちるん  
 べ目のいもいもかたはたもと 影よ陽さ  
 海たると月のあるあはく星のう



後二一... 申... 十翼  
し... 乃... 入  
... 乃... 報  
... 乃... 報  
... 乃... 報

*Faint, illegible bleed-through text from the reverse side of the page.*

五

